

平成21年度武雄市財務書類(普通会計)

※総務省基準モデルによる作成

貸借対照表(バランスシート)

普通会計(一般会計と土地区画整理事業特別会計の合計)で所有する現金や債権、資産形成のために投資された資金等がどのくらいあるかを示したもので、資産・負債・純資産の3つの要素から構成されています。

資産 793億5,257万円

普通会計ベースでの市の所有資産の内容と金額です。行政サービスの提供能力を表しています。

【内訳】

1. 公共資産	632億3,539万円
(1)事業用資産	297億7,497万円
庁舎、学校等	
(2)インフラ資産	334億6,042万円
道路、公園等	
2. 投資等	135億3,529万円
(1)投資及び出資金	39億5,696万円
(2)貸付金	3億7,875万円
(3)基金等	91億9,958万円
3. 流動資産	25億8,189万円
(1)資金	14億6,360万円
(2)未収金等	11億6,009万円
市税等	
(3)貸倒引当金	△4,181万円

負債 294億3,158万円

普通会計ベースでの借入金や将来の職員の退職金など、将来世代が負担する債務です。

【内訳】

1. 固定負債	278億6,793万円
(1)地方債	237億4,384万円
(2)退職手当引当金	41億2,409万円
(3)借入金等	0万円
2. 流動負債	15億6,366万円
(1)翌年度償還予定地方債	9億1,985万円

純資産 499億2,099万円

現在までの世代が負担した金額で、正味の資

(資産) = (負債) + (純資産)
= 793億5,257万円

市民一人あたりの資産・負債

資産 154万5千円
(うち、公共資産 123万1千円)

負債 57万3千円

純資産 97万2千円

資金収支計算書

1年間の現金の収入(歳入)と支出(歳出)が、どのような理由で増減しているかを、性質別に区分して整理したものです。

期首(20年度末)資金残高 6億2,697万円

当期資金収支額 8億3,663万円

【内訳】

経常的収支(a)	31億9,258万円
資本的収支(b)	△5億1,640万円
基礎的財政収支(a+b)	26億7,618万円
財務的収支	△18億3,955万円

期末(21年度末)資金残高 14億6,360万円

純資産変動計算書

1年間の純資産(正味の財産)がどのように増減したかを示しています。

期首(20年度末)純資産残高 495億9,005万円

当期純資産変動額 3億3,094万円

【内訳】

純行政コスト	△172億7,450万円
財源の調達	224億6,040万円
税収、国や県からの補助金等	
その他	△48億5,496万円

期末(21年度末)純資産残高 499億2,099万円

行政コスト計算書

1年間の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料・保険料などの収入を示すものです。従来の官公庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。

総行政コスト(A) 186億5,986万円

【内訳】

1. 人にかかるコスト	43億3,064万円
職員の給与、退職手当等	
2. 物にかかるコスト	42億24万円
物件費、減価償却費、維持補修費等	
3. 移転支出的なコスト	95億6,356万円
生活保護費などの社会保障給付、他団体への補助金等	
4. その他のコスト	5億6,542万円

経常収益(B) 13億8,536万円

行政サービスの利用で市民の皆さんが直接負担する施設使用料、手数料、保険料等です。

純行政コスト 172億7,450万円

総行政コスト(A) - 経常収益(B)
純粋な行政コストです。

市民一人あたりの行政コスト

総行政コスト 36万3千円

経常収益 2万7千円

純行政コスト 33万6千円

※人口は、平成22年3月31日住民基本台帳人口:51,371人

※端数処理により各項目の金額と内訳の合計額が一致しない場合があります。

平成21年度武雄市財務書類(単体)

※総務省基準モデルによる作成

貸借対照表(バランスシート)

普通会計、特別会計及び企業会計をひとつの行政サービス実施主体(単体)とみなして市全体の所有する現金や債権、資産形成のために投資された資金等がどのくらいあるかを示したもので、資産・負債・純資産の3つの要素から構成されています。

資産 1,141億9,131万円

単体ベースでの市の所有資産の内容と金額です。行政サービスの提供能力を表しています。

【内訳】	
1. 公共資産 951億2,565万円	
(1)事業用資産 309億2,117万円	庁舎、学校等
(2)インフラ資産 642億448万円	道路、公園、下水道等
(3)繰延資産 0円	市債発行費、開発費等
2. 投資等 149億2,157万円	
(1)投資及び出資金 44億5,656万円	
(2)貸付金 3億7,875万円	
(3)基金等 100億8,626万円	
3. 流動資産 41億4,409万円	
(1)資金 24億4,286万円	
(2)未収金等 17億8,721万円	市税等

負債 438億4,776万円

単体ベースでの借入金や将来の職員の退職金など、将来世代が負担する債務です。

【内訳】	
1. 固定負債 416億8,549万円	
(1)地方債 375億6,140万円	
(2)退職手当引当金 41億2,409万円	
(3)借入金等 0円	
2. 流動負債 21億6,228万円	
(1)翌年度償還予定地方債 12億9,363万円	
(2)未払金等 8億6,865万円	

純資産 703億4,356万円

現在までの世代が負担した金額で、正味の資

$$(資産) = (負債) + (純資産) = 1,141億9,132万円$$

市民一人あたりの資産・負債

資産 222万3千円
(うち、公共資産 185万2千円)

負債 85万4千円

純資産 136万9千円

資金収支計算書

1年間の関係団体全体の現金の収入(歳入)と支出(歳出)が、どのような理由で増減しているかを、性質別に区分して整理したものです。

期首(20年度末)資金残高 15億2,559万円

当期資金収支額 9億1,727万円

【内訳】	
経常的収支(a) 44億2,723万円	
資本的収支(b) △1億4,128万円	
基礎的財政収支(a+b) 42億8,595万円	
財務的収支 △33億6,867万円	

期末(21年度末)資金残高 24億4,286万円

純資産変動計算書

1年間の市全体の純資産(正味の財産)がどのように増減したかを示しています。

期首(20年度末)純資産残高 700億7,600万円

当期純資産変動額 2億6,756万円

【内訳】	
純行政コスト △236億7,162万円	
財源の調達 300億9,403万円	
税金、国や県からの補助金等	
その他 △61億5,485万円	

期末(21年度末)純資産残高 703億4,356万円

行政コスト計算書

1年間の関係団体全体の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料・保険料などの収入を示すものです。従来の官公庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。

総行政コスト(A) 405億4,965万円

【内訳】

1. 人にかかるコスト 61億526万円	職員給与、退職手当等
2. 物にかかるコスト 73億9,476万円	物件費、減価償却費、維持補修費等
3. 移転支出的なコスト 252億2,863万円	生活保護費などの社会保障給付、他団体への補助金等
4. その他のコスト 18億2,100万円	

経常収益(B) 168億7,803万円

行政サービスの利用で市民の皆さんが直接負担する施設使用料、手数料、保険料等です。

純行政コスト 236億7,162万円

総行政コスト(A) - 経常収益(B)
純粋な行政コストです。

市民一人あたりの行政コスト

総行政コスト 78万9千円

経常収益 32万9千円

純行政コスト 46万1千円

※人口は、平成22年3月31日住民基本台帳人口:51,371人

※端数処理により各項目の金額と内訳の合計額が一致しない場合があります。

平成21年度武雄市財務書類(連結会計)

※総務省基準モデルによる作成

連結貸借対照表(バランスシート)

武雄市と連携協力して行政サービスを実施している関係団体(一部事務組合等)をひとつの行政サービス実施主体とみなして、当該団体全体の所有する現金や債権、資産形成のために投資された資金等がどのくらいあるかを示したもので、資産・負債・純資産の3つの要素から構成されています。

資産 1,279億44万円

関係団体全体の所有資産の内容と金額です。行政サービスの提供能力を表しています。

【内訳】

1. 公共資産	1,065億9,812万円
(1)事業用資産	338億6,802万円 庁舎、学校等
(2)インフラ資産	727億3,010万円 道路、公園、下水道等
(3)繰延資産	0万円 市債発行費、開発費等
2. 投資等	165億1,349万円
(1)投資及び出資金	51億3,595万円
(2)貸付金	3億7,875万円
(3)基金等	109億9,879万円
3. 流動資産	47億8,883万円
(1)資金	30億7,518万円
(2)未収金等	18億289万円 市税等

負債 485億6,773万円

関係団体全体での借入金や将来の職員の退職金など、将来世代が負担する債務です。

【内訳】

1. 固定負債	446億3,111万円
(1)地方債	378億5,207万円
(2)退職手当引当金	48億102万円
(3)借入金等	19億7,802万円
2. 流動負債	39億3,662万円
(1)翌年度償還予定地方債	13億8,657万円

純資産 793億3,271万円

現在までの世代が負担した金額で、正味の資

$$(資産) = (負債) + (純資産) = 1,279億44万円$$

市民一人あたりの資産・負債

資産	249万円	負債	94万5千円
(うち、公共資産)	207万5千円)	純資産	154万4千円

連結資金収支計算書

1年間の関係団体全体の現金の収入(歳入)と支出(歳出)が、どのような理由で増減しているかを、性質別に区分して整理したものです。

期首(20年度末)資金残高 22億7,328万円

当期資金収支額 8億190万円

【内訳】

経常的収支(a)	47億9,254万円
資本的収支(b)	△2億5,156万円
基礎的財政収支(a+b)	45億4,098万円
財務的収支	△37億3,908万円

期末(21年度末)資金残高 30億7,518万円

連結純資産変動計算書

1年間の関係団体全体の純資産(正味の財産)がどのように増減したかを示しています。

期首(20年度末)純資産残高 791億5,436万円

当期純資産変動額 1億7,835万円

【内訳】

純行政コスト	△280億6,171万円
財源の調達	350億7,675万円
税金、国や県からの補助金等	
その他	△68億3,669万円

期末(21年度末)純資産残高 793億3,271万円

連結行政コスト計算書

1年間の関係団体全体の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料・保険料などの収入を示すものです。従来の官公庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。

総行政コスト(A) 455億2,950万円

【内訳】

1. 人にかかるコスト	69億1,060万円
職員の給与、退職手当等	
2. 物にかかるコスト	81億6,748万円
物件費、減価償却費、維持補修費等	
3. 移転支的的なコスト	285億6,726万円
生活保護費などの社会保障給付、他団体への補助金等	
4. その他のコスト	18億8,416万円
地方債の利子等	

経常収益(B) 174億6,779万円

行政サービスの利用で市民の皆さんが直接負担する施設使用料、手数料、保険料等です。

純行政コスト 280億6,171万円

総行政コスト(A) - 経常収益(B)
純粋な行政コストです。

市民一人あたりの行政コスト

総行政コスト	88万6千円
経常収益	34万円
純行政コスト	54万6千円

※人口は、平成22年3月31日住民基本台帳人口:51,371人

※端数処理により各項目の金額と内訳の合計額が一致しない場合があります。

※連結対象団体: 杵藤地区広域市町村圏組合、杵島工業用水道企業団、佐賀西部広域水道企業団、杵東地区衛生処理場組合、武雄市土地開発公社、武雄市体育協会